

新たな国際戦略の骨子について（たたき台）

資料4

1 位置付け

○国際情勢等の内外の環境の変化等を踏まえ、より一層効果的な国際関係施策を推進するための基本指針となるもの。
○「第4次山形県総合発展計画(仮称、策定作業中)」を踏まえ、「次期産業振興ビジョン」、「観光振興に係る次期基本計画」、「第6次山形県教育振興計画」との整合性を取って定める。

2 計画期間

令和2年度～6年度（5年間）

3 目標指標

（第2回委員会で検討予定）

3 本県を取り巻く環境と社会情勢等

- 少子高齢化の進行や社会移動等による人口減少の加速
- グローバル化の拡大・深化
- ICTの飛躍的発展
- 訪日外国人・在留外国人・就労外国人ともに増加
- 個人旅行化の進展、観光ニーズの多様化
- 観光・貿易における地域間競争の激化

4 課題

【国際交流】

- 海外との交流を通じた国際感覚や世界的な視野を身につけた人材の育成
- 県民の国際理解と地域の国際化の推進
- 国際化を支える拠点・ネットワークの充実強化
- 在住外国人への生活支援の充実

【経済交流】

- 市場ごとの成果や顕在化してきた課題・外部情勢の変化に伴う対応
- 輸出を見据えた県産品の輸出品目の育成
- 信頼できる輸出パートナーの確保と関係強化
- ものづくり企業の海外取引等支援の充実
- 酒田港の貨物量拡大と航路拡充など利便性の向上

【観光交流】

- 市場ごとの成果や特性を踏まえた誘客対策の充実
- 定期便化を見据えたチャーター便の誘致と個人旅行客増に対応した二次交通の充実
- 外国人が快適に滞在することができる環境の更なる整備促進
- 個人旅行客増に対応した効果的な情報発信
- 欧米豪など新たな有望市場への取組みの拡大

取組みの基本方向

○世界とつながる環境づくりの促進

○山形の魅力・強みを活かした海外展開

○関係機関の連携強化

地域の国際化

○多文化共生の推進

I 言葉・生活・文化の壁を超えた相互理解の促進

- ・地域生活に必要な日本語や日本社会に関する学びの機会の提供
- ・生活情報、災害情報等の多言語による提供の充実
- ・多文化共生意識の醸成のための交流イベント、多文化理解講座の開催

II 多文化共生推進のための態勢整備

- ・国、市町村、NPO、地域コミュニティ等との連携強化
- ・国際交流サポーター・ボランティアの確保と育成

○国際交流の促進

I 多様な国際交流の促進・経済交流への発展

- ・姉妹友好州省や海外県人会等を通じた国際交流の深化
- ・海外県人会の担い手育成の支援
- ・相互交流の促進に向けた支援の充実

II グローバル人材の育成

- ・グローバル人材の基礎となる外国語教育の充実、国際理解教育の促進
- ・県民の国際的視野を広げるためのアウトバウンド促進
- ・外国人留学生等の人材活用に向けた支援

○多様な交流から経済交流への発展
○国際業務に携わるグローバル人材の育成
○外国人材の活用

○相互交流の促進によるインバウンドへの普及
○プロモーション、接遇等への外国人材の活用
○在住者にも来訪者にもやさしい地域づくり

貿易拡大・国際物流の強化

I 県産品の輸出拡大・戦略的な海外展開の強化

- ・香港、台湾、中国、ASEANを中心に、現地情勢や市場ごとの成果・課題に対応した県産品の輸出拡大
- ・現地活動拠点（ハルビン事務所等）やコーディネーター等の連携による効果的・効率的な現地支援態勢の充実
- ・越境EC（インターネットを通じた国際的な電子商取引）を活用した販路開拓への支援、SNS等を活用した情報収集・発信の強化など、グローバル化に対応したICTの活用促進
- ・市場に応じた商品づくりへの支援の充実
- ・企業支援機関との連携強化によるものづくり企業への海外取引等のスタートアップ支援等の充実
- ・グローバル人材の育成・確保と県内企業における活用の促進

II 酒田港を核とした物流網の強化

- ・酒田港へのコンテナ貨物増加に向けた新規荷主の掘り出し強化とそのための企業ニーズに合った助成制度の充実
- ・物流基盤としての酒田港を活かした企業誘致による産業振興
- ・酒田港を中心とした対岸貿易の拡大
- ・酒田港と県内陸部や太平洋側を結ぶ国道47号等の整備促進

インバウンドの推進

I 市場特性を踏まえた誘客対策

- ・市場ごとの成果や特性を踏まえた誘客対策の充実
- ・欧州・米国・豪州など新たな有望市場への取組み拡大
- II 本県の強みを生かしたツーリズムの展開
- ・雪、美食・美酒、精神文化など、本県の強みとなる観光素材の活用
- ・観光消費額拡大に向けた取組みの推進（宿泊・滞在・周遊の推進、ナイトタイムエコノミーコンテツの構築 など）
- ・快適な周遊のための受入環境の整備

III 交通の利便性向上

- ・定期便化を見据えた国際チャーター便の誘致、外航クルーズ船の誘致促進
- ・首都圏空港、仙台空港など他県空港利用による誘客の推進
- ・ゲートウェイとなる空港・港湾の機能強化
- ・最寄駅や空港などからの二次交通への対応

IV 個人旅行客増に対応した情報発信の強化

- ・個人旅行者向けデジタルプロモーションの展開（ICTを最大限に活用した「旅マエ・旅ナカ・旅アト」での効果的なアプローチ）
- ・旅の情報を提供する観光案内所の機能と予約システムを兼ね備えた観光サイトの構築(県観光HPのリニューアル)

○重点地域 台湾 香港 中国 ASEAN 【新規】 欧州・米国・豪州

○海外の市場分析や流動分析に基づく重点地域の設定と展開 ○市場特性や嗜好に応じた対策

世界の活力を取り込み、世界に開かれた山形の実現